

## 看護部長懇談

日時：2025年12月22日(月)11:00～12:00

会場：日亜 Green (外来診療棟 5 階)

組合側出席者：委員長・書記長・書記次長・中央執行委員・組合員 2 名

大学側出席者：看護部長、副看護部長 4 名、看護師長、事務部長、事務次長、総務課長、  
総務課副課長 2 名、人事課副課長

### 【要点】

#### ●「個々の希望に合わせた勤務時間調整を導入(看護師 3 名、看護補助者 1 名)」について

大学：看護師について、公募や退職した看護師に求人の手紙を送付した結果 3 名が来てくれることとなった。看護補助者についても公募の結果 1 名が来てくれることとなった。

#### ●看護補助者(エイドアシスタント)の新規導入について

大学：昼間の補助者をエイドアシスタントとして、新規で最大 3 名まで派遣で増員する予定である。

組合：昼の看護補助者で行う業務は一緒か。

大学：一緒である。

#### ●看護助手の正規雇用に向けた取り組みについて

大学：「看護助手の正規雇用に向けた取り組み」は前から話が出ているが、なかなか話が進んでいない。夜勤専従の看護補助者についても制度を設けたが、夜間の専従については 3 枠に対して 1 人しか来ていない。3 人で固定されれば業務の見通しがたつが、そこが埋まらないのが実情だ。

組合：夜間アシスタントや補助者について、いろいろ考えていただいているのは分かるが、その人達は毎日来るわけではない。長く定着していただくことが必要だと考えている。なので、能力のある人には試験を受けてもらって、厳選のうえ正規雇用に変換していくといったことがあれば定着しやすいのではないかと。

大学：看護部だけでは決められない。

組合：看護助手の定着、補充により看護師は看護業務に専念できる。逆に看護助手が増えたり減ったりすることにより部署内で業務配分を組み直す作業が常に繰り返されることは非常に効率が悪い。そのことについても知っておいてほしい。

### ●看護補助者の病棟への固定化について

組合：看護補助者について、最初の部署で慣れてきたところで、別の部署に異動がある。新人にとっては精神的な負担が大きいのではないかと。また一から業務内容を覚える必要がある。異動について検討していただきたい。

大学：異動のタイミングについてもヒアリングを密にしている。これくらい慣れたら異動してもらおうということを最初から約束している。細かなサポートはしている。

### ●夜勤負担について

組合：夜勤回数は月に4回くらいであれば、体調管理もしやすいと考えている。それを見越して募集をかけてほしい。来年度は何人入る予定か。

大学：66人の予定である。

組合：夜勤が続くと、月に8回の休みでは体が休まらない。また看護協会のガイドラインにあるように、連休を取れるようにしてほしい。

大学：夜勤の「72時間ルール」を遵守しなければならない。一人あたりの回数等を見ると、定数を増やしてもらわなければならないが、病院の経費に係わってくるので、調整が必要になってくる。

組合：計算事態は従前どおりか。

大学：計算については今年変えている。募集するだけでなく、育てることも考えていかなければならない。時短の人に夜勤をしてもらうことについても、師長のヒアリングをしつつ慎重におこなっている。夜勤1回でも、2回でもしてくれる人はちょっとずつ増えている。

組合：時短が終わってフルタイムに戻るのが怖くてやめる人もいるのではないかと。フルタイムになると夜勤は増えるが、夜勤明けに月に何回か連休をとれるしくみ、月8回ではなく月10回の休みになるなど考えて欲しい。

大学：やはりブランクがあると、病棟業務の状況についていけないこともあるようだ。それを避けるためにも外来・病棟の一元化管理体制を導入している。

### ●委員会活動のペーパーレス化について

組合：委員会活動について、必要や意義は十分理解しているが、環境に配慮した取り組みとして、ペーパーレス化を提案させていただきたい。加えて、委員会の活動を患者への対応から離れてできるように看護部が音頭を取って啓発を進めていただきたい。

大学：師長会資料でもペーパーレス化を検討した。ペーパーレス化は可能と考えるが、スタッフへの周知が課題となっている。また、メールで配布した資料を個人で印刷するとデータ漏洩のリスクがある。委員会活動については、人数を確保するというのが前提になる。師長の采配で患者対応から離れて実施している部署もある。患者対応が優先だが、余裕があればやってもらえればよいのではないかと。委員会での課題もかなり削減して

きているはずだが。

組合：委員会からの課題としては、部署でカンファレンスを行いそれをまとめて提出するものが多い。看護ケアとはまた違い、文章をまとめる等慣れない作業であり集中力が必要だ。師長の采配では弱く、看護部が積極的に促してほしい。患者対応から離れ集中して作成することで成果物も質が良いものを提出できると考える。

以上